人文・自然・人間科学研究　No. 47, pp. 142–156　　March 2022

自発的な活動を促す「子ども向けミュージカル」の開発及び改善

山田　克巳・萬　　司

Development and Iimprovement of “Musicals for Children” that Encourage Voluntary Activities

Katsumi YAMADA・Tsukasa YOROZU

要　旨

本稿は，子どもが自発的に鑑賞し表現する「子ども向けミュージカル」の開発及び改善を行い，幼児教育段階での取扱いを考察するものである。その基盤となる幼稚園教育要領，保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育・保育要領は，2017 年度の全面実施から 5 年が経ち，幼児期の学校教育としての位置づけがますますクローズアップされてきている。こうした現状を踏まえ，幼児期の学校教育としての幼稚園等の学びや小学校教育との連携，幼児教育段階での「子ども向けミュージカル」の取扱いを明らかにすることを試みた。

キーワード：幼小連携，幼児教育における音楽，小学校教育における音楽，幼稚園教育要領，小学校学習指導要領，教育課程の編成

1. 研究の動機・概要

近年「5 歳児の教育プログラム」[1] の必要性が報道されるなど，文部科学省は幼小連携[2] を推進する方針を強く打ち出している。そのため，幼稚園教育要領等[3] と小学校学習指導要領に示される指導内容について連続性を図り，幼児の活動と小学生の学習との具体的な接続を研究する必要性が高まっている。萬（2020）は，『子どもの音楽表現から考える幼小連携』[4] で文科省検定教科書である小学校音楽科の教科用図書（教育出版）の編集意図や指導内容を分析した。これを市販の子ども向けの曲集と比較することから，幼児期から小学校低学年の子どもの音楽表現について言及している。その概要は，子どもの音楽活動では声や楽器の音色などを聴き取り簡単なリズムや旋律を音楽で表現するだけではなく，言語活動や身体表現などと関連させることが重要であり，活動意図を踏

まえた音楽の開発も不可欠としている。

本研究はこれを引き継ぎ，子どもの言語活動，音楽表現，身体表現の関連を図った「子ども向けミュージカル」のあり方を探求するものである。そこで，山田克巳「リズミック王国 ～パークスの箱～（以下，「リズミック王国」と示す）」[5]（2020）を対象として開発及び改善することを試みた。「リズミック王国」は，3 歳児以上向けのミュージカルとし，上演時間約 30 分，子どもたちが出演者と一緒に言葉，音楽，身体で表現をする「子ども向けミュージカル」である。出演者は拓殖大学北海道短期大学の「特別研究（身体表現）」を履修する 1 年生 32 名で，子どもの鑑賞や表現の実際を想定し自発的・主体的な活動をめざして創意工夫する授業となる。その実践研究として，新型コロナウイルス感染症の拡大防止措置を行いながら深川市近郊の幼児教育施設を本学に招いての公演を計画した。

2.「5 つの領域」の選択と取扱い

幼児教育では，幼稚園教育要領等に示される「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の各領域（以下，「5 つの領域」と示す）による指導で教育課程を編成する。その際，5 つの領域は相互に関わっているとしているため，単独の領域で指導を計画するのではなくいくつかの領域を関わらせて指導を構築することになる。また，幼稚園教育要領は「幼稚園教育において育みたい資質・能力」[6] と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」[7] を対にして示し，「指導と評価の一体化」を図った教育課程の編成も求めている。実践にあたっては，子どもの自発的な活動としての「遊び」とこれを支える「環境」を設定し，いくつかの領域が関連する活動によって「幼稚園教育において育みたい資質・能力」に迫ることになる。ここで課題になるのは，「子ども向けミュージカル」で展開される学びを想定して領域の選択と具体的な取扱いを検討することである。今回は，領域「人間関係」「言葉」「表現」の取扱いについて検討することとした。

2.1　領域「人間関係」の検討

領域「人間関係」で示される内容は 13 項目[8] で，その中から次の 3 点の取扱いを検討した。

① いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。
② 友達と積極的に関わりながら喜びや悲しみを共感し合う。
③ よいことや悪いことがあることに気付き，考えながら行動する。

子どもが出演者の言葉やリズムなどに合わせて表現することは，ミュージカルのストーリーに導かれて友達と目的を共有して最後までやり遂げたり，一緒に表現して達成感を得たりする活動となる。そのため，①と②の内容に係るとしたが，重視したのは子どもがミュージカルのストーリーに促されて自発的に活動することと，その機会をできるだけ多く設定することである。また，ストーリーの内容は，協力することや粘り強く取り組むことの大切さ，人を騙すことが悪いことなどの気付きを促すものとなっていて，③の内容に係るものとした。「リズミック王国」のストーリーは次の通りである。

遠い昔，あるところに「リズミック王国」という名の国がありました。この国にはパークスという不思議な力を持ったオブジェがあり，そのおかげで平和が保たれていました。しかし，この平和がとても長く続いたことで，国を守るために結成されたBLUE, RED, GREENの戦士たちの統率が乱れ，もめ事さえ見られるようになっていました。

困った王様は，パークスが収められている箱を50年毎に交換する儀式を利用することを思いつき，「この儀式が成功しなければ箱は開けられない」と戦士たちに団結して取り組むよう命じます。その儀式とは，オノマトペなどを唱えながら三三七拍子にのって身体で表現することでした。

戦士たちは何度も何度も挑戦し失敗しましたが，大勢の子どもたちの力も借りて難関を突破していきます。最後の試練では，力を合わせてリズミックパワーをパークスに浴びせ，儀式は見事に終えることができました。ところがパークスの箱は開きません。すると王様は鍵を使って箱をすんなり開けてしまいました。拍子抜けした戦士たちは，王様に儀式は本当に必要だったかと詰め寄ります。すると，王様は「協力することやあきらめないことの大切さに気づいて欲しかった」と本心を語ります。王様の気持ちを知った戦士たちは，再び一丸となって国を守る誓いを立てました。

こうしたストーリーによる学びは，紙芝居や絵本の読み聞かせなどでも同様で，登場人物の心情とその変化をたずねたり，ところどころでこれまでのストーリーを振り返ったりするなどし，フィードバックする活動が有効である。今回は，出演者によってこうしたフィードバックをする場面を設定した。

2.2　領域「言葉」の検討

領域「言葉」で示される内容は10項目[9]で，その中から次の2点の取扱いを検討した。

① いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする。
② 絵本や物語などに親しみ，興味をもって聞き，想像をする楽しさを味わう。

「リズミック王国」では，子どもの活動と関連させながら擬音語や擬声語等[10]（オノマトペ：onomatopoeia）で表現する活動を多く取り入れるように改善を図った。日本語には多種多様な擬音語や擬声語等があり，ひとつの語がたくさんの意味または用法を持つことや，日常的に無意識のうちに多用されている実態があるのも特徴である。幼児期は語彙数が飛躍的に増えるため，これに擬音語や擬声語等を用いることによって言葉の表現力を向上させることが期待できる。また，萬（2020）は，『子どもの音楽表現から考える幼小連携』の子ども向けの曲集の調査で歌詞に擬音語や擬声語等が認められる割合は掲載曲の半数を超えると報告している。そして，「日常で多用される繰り返し言葉（畳語）であること，言葉のリズムと音楽のリズムとの関係性がよく表現しやすいこと，などから多用される傾向にあると推測できる」と述べている。そして，子どものうたの歌詞に使われる擬音語や擬声語等を表 1 のように 4 分類として出現の割合を調べ，分類 2 と分類 4 とで 80％近くを占めると報告している。以上から，歌唱活動においても使用頻度の高さが指摘できる。

表 1　擬音語や擬声語等の四分類と出現の割合

（%）

分類 1 音	分類 2 状態や様子	分類 3 動きや気持ち	分類 4 鳴き声
12.7	50.8	7.9	28.6

実践研究では，出演者（ミュージカルでの王様や戦士）が公演に向けて検討し表現した擬音語や擬声語等は表 2 となり，計 52 種類を三三七拍子のリズムに合わせ，言葉と身体とで表現することとした。身体で表現することを加えたことは，子どもたちに擬音語や擬声語等が表す状態や様子を具体的にイメージさせ，正しく理解できるようにする意図がある。

表 2　検討し使用した擬音語や擬声語等

分類 1 音（9）	分類 2 状態や様子（22）	分類 3 動きや気持ち（5）	分類 4 鳴き声（16）
エンエン，ドンドン，ポキポキ，ビリビリ，トントン，カシャカシャ，	ピカピカ，クネクネ，ガキガキ，フラフラ，ブラブラ，ビカビカ，	ワクワク，ニコニコ，ドキドキ，コチョコチョ，メソメソ	ガオガオ，ウホウホ，ワンワン，ウッキーウッキー，ホウホウ，ヒヒ

ドスドス，パチパチ，コツコツ	ビシビシ，モリモリ，グルグル，キラキラ，ピョンピョン，シュッシュッ，ムニムニ，パンパン，ギスギス，チョキチョキ，ツンツン，パタパタ，ユラユラ，ギュッギュッ，サッサ，ドカン		ンヒヒン，シャーシャー，ニャンニャン，ブヒブヒ，コケコッコー，ゲロゲロ，カーカー，モーモー，パオーン，ミーンミン，チューチュー

2.3　領域「表現」の検討

領域「表現」で示される内容は8項目[11]で，その中から次の2点の取扱いを検討した。

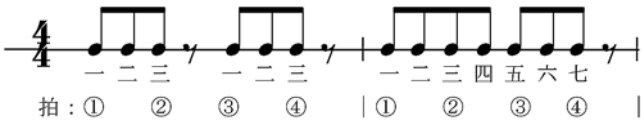
① 音楽に親しみ，歌を歌ったり，簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう。
② 自分のイメージを動きや言葉などで表現したり，演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう。

子どもが音楽を表現したり鑑賞したりする活動の多くは領域「表現」に係るもので，出演者に合わせて手拍子などで表現する活動を多く取り入れるよう改善を図った。こうした表現は，①の内容に示される「簡単なリズム楽器」を使うことと関連し，体を叩くなど体を楽器にして音楽表現するボディパーカッション（Body percussion）の概念とした。楽器を演奏するための技能は，子どもの発達段階に応じて取り扱うことが重要であるが，演奏技能の習得は運動機能が十分に発達していない子どもにとって難しい活動となる。そのため，本研究では楽器演奏に係る操作を軽減した表現活動となるように，自分の手や足などを使って拍やリズムを表現することを多く取り入れた。また，擬音語や擬声語等が現しているものを身体で表現することは，②の内容に係るとした。出演者が擬音語や擬声語等からイメージされる様子などを言葉とともに身体で表現し，それらの表現を子どもたちが模倣することによって自発的・主体的な活動となることをねらった。

さらに三三七拍子を活用して，拍に合わせボディパーカッションで表現することを繰り返し行えるようにした。三三七拍子の由来や起源は諸説あるが，日本古来の「手締め」の文化と関係し，そろって手を打つことに大きな意味がある。三または七という奇数の数で現されると音楽的なまとまりをイメージしにくいが，実際はまとまりがよく子どもにとっても表現しやすい。本研究では三三七拍子を譜例1に示すように，4分の4拍子，

八分音符と八分休符による2小節のまとまりとして取り扱っている。この反復によって4小節の安定感ある音楽的なまとまりが形成される。さらに，このリズムを唱歌[12]で「チャチャチャ，チャチャチャ，チャチャチャチャチャチャチャチャ」と言葉で表すことも，子どもにとって有効な表現方法のひとつといえる。なお，こうした我が国の文化に係る取扱いとして領域「環境」の一部に述べられている[13]。

譜例1　本研究での三三七拍子の取扱い



3. 小学校との連携に関して

萬（2021）は，「5つの領域」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関係性を表3とし「人間関係」「環境」への偏りを指摘しつつ，「指導と評価の一体化」の概念から今後の整理の必要を述べた[14]。本研究では表3に「小学校以降の教科との関連」を加え，領域「人間関係」からは「道徳」，領域「言葉」からは「国語」，領域「表現」からは「音楽」，との連携を考察することとした。また，今回はさらに具体性を求めて小学校学習指導要領は〔第1学年及び第2学年〕の指導内容に基づいて検討している。

表3　「5つの領域」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関係性

領　域	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	小学校以降の教科との関連
健　康	⑴　健康な心と体	体育（保健体育）
人　間 関　係	⑵　自立心	道徳
	⑶　協同性	
	⑷　道徳性・規範意識の芽生え	
	⑸　社会生活との関わり	生活・社会・道徳
環　境	⑹　思考力の芽生え	生活・理科
	⑺　自然との関わり・生命尊重	
	⑻　数量や図形，標識や文字などへの関心・感覚	算数（数学）・国語
言　葉	⑼　言葉による伝え合い	国語・外国語・外国語活動
表　現	⑽　豊かな感性と表現	音楽・図画工作（美術）

「リズミック王国」のあらすじは，あきらめずに粘り強く取り組むことや善悪の判断などを取り上げている。これを子どもたちが理解することで領域「人間関係」に係るとし，小学校「道徳」で関連する具体を下線で示し表4に例示した。

表 4　領域「人間関係」と小学校「道徳」との関連の例

幼稚園「人間関係」	小学校「道徳」
⑷　いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。 ⑻　友達と楽しく活動する中で，共通の目的を見いだし，工夫したり，協力したりなどする。 ⑼　よいことや悪いことがあることに気付き，考えながら行動する。	〔善悪の判断，自律，自由と責任〕 よいことと悪いこととの区別をし，よいと思うことを進んで行うこと。 〔友情・信頼〕 友達と仲よくし，助け合うこと。

※表中の番号等は，幼稚園教育要領や小学校学習指導要領に示されているもの（以下，同じ）

また，挿入曲の歌詞の理解や劇中に用いられる擬音語や擬声語等の理解について領域「言葉」に係るとし，小学校「国語」で関連する具体を下線で示し表 5 に例示した。

表 5　領域「言葉」と小学校「国語」との関連の例

幼稚園「言葉」	小学校「国語」
⑻　いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする。 ⑼　絵本や物語などに親しみ，興味をもって聞き，想像をする楽しさを味わう。	〔知識及び技能〕 ⑴　ア　言葉には，事物の内容を表す働きや，経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 〔思考力，判断力，表現力等〕 A　話すこと・聞くこと ⑴　エ　話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き，話の内容を捉えて感想をもつこと。

そして，挿入曲やリズムを表現することなどについて領域「表現」に係るとし，小学校「音楽」で関連する具体を下線で示し表 6 に例示した。

表 6　領域「表現」と小学校「音楽」との関連の例

幼稚園「表現」	小学校「音楽」
⑹　音楽に親しみ，歌を歌ったり，簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう。 ⑻　自分のイメージを動きや言葉などで表現したり，演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう。	A　表現　⑵　器楽　〔技能〕 ウ　㋐　範奏を聴いたり，リズム譜などを見たりして演奏する技能を身に付けること。 B　鑑賞　〔思考力，判断力，表現力等〕 ⑴　ア　曲や演奏の楽しさを見いだし，曲全体を味わって聴くこと。

別の視点では，こうしたミュージカルなどを鑑賞する機会の設定は，幼稚園は「行事の指導」で，小学校は「特別活動」での取扱いとなる。特に小学校の「特別活動」[15] には，「平素の学習活動の成果を発表し，自己の向上の意欲を一層高めたり，文化や芸術に親しんだりするようにすること」（2017：167）とあり，学校全体の教育課程を編成す

る際に文化的行事の設定が求められ，ミュージカルなどの総合芸術の鑑賞が該当すると考える。

このように小学校以降の教育課程は，幼稚園の領域による教育課程と連携させることが可能と考えられ，子どもの体験やレディネスを踏まえることで有効性は高まるとも考える。ただし，小学校以降の教科の独自性を加味すると，特に〔第 1 学年及び第 2 学年〕では教科間の横断的な取扱いが実現に向けた鍵となるだろう。しかし，中学校以降では教科担任制を導入し教科の専門性が高くなるに従い，横断的な取扱いの難しさが顕著となる。ここに，それぞれの校種間連携を図る際の課題があると考える。いずれにしても，子どもの発達を連続的に捉え，これに応じた適切な教育課程は求められる。

4.「リズミック王国」の開発及び改善

「リズミック王国」の挿入曲は，「どうすればいい」「守れよ王を」「平和の戦士」「魔法のリズム」の 4 曲である。音楽をより聴きやすくするために編曲（アレンジ）と収録を専門家[16] に委託し，各シーンと曲想がマッチングするよう音楽（伴奏）を改めて開発した。ここで検討を要したのが使用する音源の選択である。例えば，同じ旋律をストリングス系とブラス系のそれぞれの音源で比較聴取した場合，感じ取る曲想に大きな違いが生じる。そして，挿入曲が使われるシーンに応じて音源を選択することは，聴き取りやすさにとどまらずシーン全体の雰囲気に大きく影響する。そして，『子どもの音楽表現から考える幼小連携』を参考に，拍子は「4 分の 4 拍子」，旋律は音階上の隣り合った音へ進行する「順次進行」，最低音と最高音の音程間は 8〜10 度程度，調性は音程間を優先して不問，を基盤とし改善を図った。

4.1　第 1 曲：どうすればいい

「どうすればいい」はオープニングの曲で，拍子・速度・調性は表 7 とした。その特徴は表 8 の台詞と挿入歌の構成で，冒頭の台詞に接続して 4 小節の短い挿入歌が入り，直ぐに台詞に戻るものである。そのため，台詞表現のスピードと挿入歌の速度が一致するように速度の設定を調整し，さらに台詞と挿入歌で声の音域が滑らかに接続するように設定した。このことで子どもたちが聴き取りやすくなるよう配慮し，台詞と音楽（歌）とで展開されるミュージカルの導入を図っている。

表 7　拍子・速度・調性

拍　子	4 分の 4 拍子
速　度	♩＝76
調　性	調号なし（ハ長調）

表 8　台詞と挿入歌

あ〜困った，どうすればいい　どうすればいいんだ お父様！お母様！私に力をお貸しください！ 挿入歌（4 小節）　ついにやって来たこの時が　50 年というその節目が だけど，だけど，戦士たちの気持ちがバラバラなのです パークスの力に頼りすぎていたのでしょうか どうすれいい，どうすればいい

4.2　第 2 曲：守れよ王を

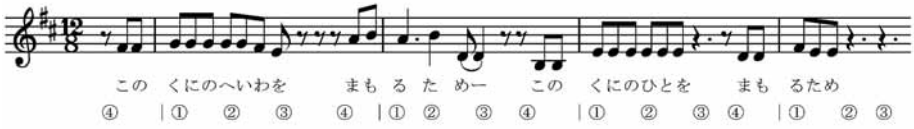
拍子・速度・調性は表 9 とし，言葉の自然のまとまりを重視して 8 分の 12 拍子でゆったりとした雰囲気を醸し出す曲想を優先した。音楽理論上，8 分の 12 拍子は 4 分の 4 拍子に書き換えることは可能で，拍子の違う譜例 2 と譜例 3 に示す楽譜を実際に演奏しながら検討した。4 分の 4 拍子の記譜では，三連符によって 8 分の 12 拍子と同様のリズムを表すことは可能となるが，譜例 3 中の実線枠の八分音符と八分休符の表記，点線枠のシンコペーション（syncopation, 切分法）のリズムに微少な差違が生じる。

しかし，8 分の 12 拍子の拍のカウントは 4 拍となり，理論的には 8 分の 12 拍子は「複合 4 拍子」となる。したがって，8 分の 12 拍子は 4 分の 4 拍子系に含まれるとし，書き換えを採用しなかった。そして，アウフタクト（Auftakt, 弱起）による旋律と歌詞との関係，言葉が聴き取りやすい速度設定，順次進行を基本としつつ跳躍進行を効果的に配置するなどして改善を図った。

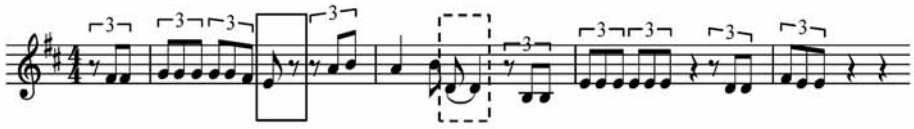
表 9　拍子・速度・調性

拍　子	8 分の 12 拍子
速　度	♩＝102
調　性	2♯（ニ長調）

譜例 2　8 分の 12 拍子　※○数字は拍のカウント



譜例 3　4 分の 4 拍子



4.3　第 3 曲：平和の戦士

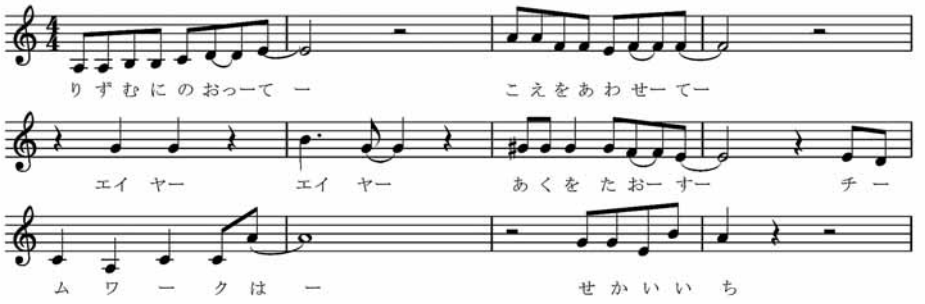
3 組の戦士たちが登場する際のテーマ曲で，登場後に子どもたちと三三七拍子で擬音語や擬声語等を表現する重要な場面へと続く。拍子・速度・調性は表 10 とし，譜例 4 に示す旋律は 4 分の 4 拍子で順次進行ではじまるが，強調したい歌詞「チームワークは世界一」は跳躍進行で強調した。なお，萬（2020）の小学校音楽科用教科書（低学年）の掲載曲の分析から，音程は 95%近くの楽曲が 9 度に収まるとの報告を踏まえこれに準じ譜例 5 に示す音程とし，フレーズを 4 小節でまとめることによる聴き取りやすさに配慮した。速度の設定をやや速めにしたが，歌詞（言葉）の発音や言い回しがむずかしくならないように十分な長さの休符を入れ，言葉のリズムに応じてシンコペーションによって表現するようにした。

ストーリーの進行では，Blue, Red, Green の戦士たちの登場ごとに「平和の戦士」が表現され，王様や戦士たちが三三七拍子で擬音語や擬声語等を表現するように設定している。例えば，王様が見本として「クネクネクネ（三拍子），ガキガキガキ（三拍子），フラフラ・フラフラ・フーラフラ（七拍子）」と示し，その後は戦士や子どもたちが与えられた課題を表現することになる。この時，子どもが複数回にわたり表現活動が行われるように設定することが「子ども向けミュージカル」としての特徴となる。

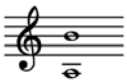
表 10　拍子・速度・調性

拍　子	4 分の 4 拍子
速　度	♩＝152
調　性	調号なし（ハ長調）

譜例 4　「平和の戦士」の旋律



譜例 5　最低音と最高音の音程（9 度）



4.4　第 4 曲：魔法のリズム

拍子・速度・調性は表 11 とし，伴奏は第 3 曲以降の活動で取り上げた三三七拍子のリズムを多用する音楽となっている。また，表 12 に示す歌詞は，ミュージカルのフィナーレを意識して改善を図った。

表 12 の「A」部分の歌詞は，ミュージカルのテーマとして重要な歌詞となり譜例 6 に示す旋律を 3 回反復し印象に残るようにした。また，表 12 に示す冒頭旋律部と主要旋律部ともに，各 4 小節で 4 つの旋律として 16 小節の楽節となり音楽的に安定した構成になるよう配慮した。「A 繰り返し：1 回め」の後の歌詞「おはよう！元気！だいじょうぶ！すてきだね！」「心を込めて誰かに伝えよう」の部分は，各 5 小節で 2 つの旋律に変化することで曲想も大きく変化させ，「A 繰り返し：2 回め」では歌詞「魔法の魔法のリズム」をさらに反復することでミュージカルのフィナーレを予感できるように改善を図った。その結果，穏やかな曲想のイントロダクションから，三三七拍子のリズムを力強く明示して冒頭旋律部がはじまり，主要旋律部を 3 回展開する構成とした。

表 11　拍子・速度・調性

拍　子	4 分の 4 拍子
速　度	♩＝140
調　性	1♭（ヘ長調）

表 12　歌詞及び全体の構成

冒頭旋律部

一人の力でできること　沢山たくさんあるけれど　（4 小節）
一人の力じゃできないことは　もっといっぱいあるんだ　（4 小節）
それは仲間をつくること　それは友達をつくること　（4 小節）
そしてたくさん話をすること　（4 小節）

主要旋律部

A
やさしい言葉が笑顔をくれる　あかるい言葉が勇気をくれる　（4 小節）
平和な国をつくろうよ　争いなんてやめようよ　（4 小節）
なぜかこころがひとつになる　魔法の魔法のリズムにのって　（4 小節）
チャチャチャ，チャチャチャ，チャチャチャチャチャチャチャ
チャチャチャ，チャチャチャ，チャチャチャチャチャチャチャ　（4 小節）

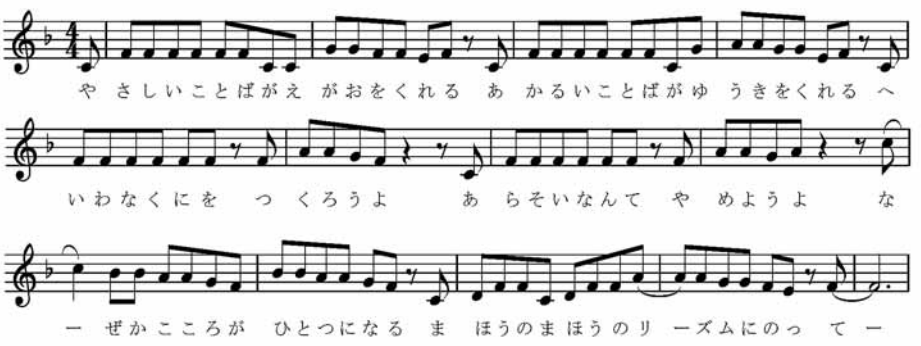
A 繰り返し：1 回め

ありがとう！元気！だいじょうぶ！すてきだね！　（5 小節）
心を込めて誰かに伝えよう　（5 小節）

A 繰り返し：2 回め

魔法の魔法のリズムにのって　（4 小節）
チャチャチャ，チャチャチャ，チャチャチャチャチャチャチャ
チャチャチャ，チャチャチャ，チャチャチャチャチャチャチャ　（4 小節）

譜例 6 「魔法のリズム」の旋律



5. まとめと今後の研究

本研究は，『子どもの音楽表現から考える幼小連携』との継続を意識しながら，幼児教育段階における表現活動について探求してきた。子どもの歌の表出に係る坂井ら（2001）の研究や紙屋（2003）の子ども向けミュージカルの取り組みを参考にしたが，2017 年（平成 29 年）告示の幼稚園教育要領等に準拠する先行研究は極めて少ない実態がある。これが本研究の困難さとなり独自性でもあり，この度の成果は意義あるものだと考える。また，「リズミック王国」の開発及び改善は，市販のシナリオや楽譜が少ない実態から貴重な教材であるとともに，今回出演者のために模範となる歌を録音したことで実用性が高くなった。

子どもが音楽表現する際は，音色やリズム，旋律などを聴き取り，歌詞の内容を理解したり言葉のまとまりと音楽のまとまりに気づいたりし，そこから曲想を感じ取りながら行われる。子どもの音楽表現を段階的にあるいは分析的にとらえ，それらを構造化したことは領域の相互関連を構築するヒントにもなった。実践研究として 2020 年 10 月 9 日拓殖大学北海道短期大学にて深川幼稚園の招待公演，11 月 8 日深川市教育委員会主催「子どもまつり」にて公演を行ったが，コロナ禍の感染対策により十分な検証とならず今後の課題としたい。

幼稚園教諭，保育士等の養成課程では学生が出演者となるが，自らの表現を子どもたちが模倣して合わせることを理解する必要がある。その際，適切な発音や発声を意図した歌い方，リズムや旋律の特徴を理解した表現，子どもの運動機能の発達を踏まえた表現などを創意工夫することが学習内容となる。その目的は，子どもたちが自発的・主体的にミュージカルを鑑賞・参加することで，面白さや楽しさを味わうことができるようにすることである。これらによって領域の相互関連を図る意味への理解が深まり，理論と実践のバランスが取れた確かな学びになると考える。

今次幼稚園教育要領により幼稚園と小学校の連携が明確に示され，文部科学省から具体的な取り組みが求められている。こうした動向から，幼児教育の目的や内容が次のステージに移ろうとしていることが推測できる。幼稚園等と小学校の教育課程の違いに着目した考察も行ったが，連携に取り組むのは幼稚園等のみの課題ではない。学習活動レベルで言えば，幼稚園教育要領に示される幼児の自発的な活動としての「遊び」とこれを支える「環境の整備」から，小学校学習指導要領に示される「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」への滑らかな連続性が必要になるだろう。これを意図した幼児教育段階での実践研究はますます求められる。

謝辞

本研究は 2020 年度の拓殖大学人文科学研究所個人研究助成を受けた。関係の皆さまに心より感謝申し上げる。（山田）

《注》

（1） 朝日新聞デジタル 2021 年 7 月 20 日『5 歳児の教育プログラム　文科省が作成へ　慎重論も』伊藤和行

（2） 本稿では「幼小連携」と示すが，「幼」は幼稚園，保育所，認定こども園，特別支援学校幼稚部等の幼児教育施設を，「小」は小学校，特別支援学校小学部等の小学校段階の教育施設を意味し，これらの連携を図る意で用いる。

（3） 本稿で「幼稚園教育要領等」と示す場合，幼稚園教育要領，保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育・保育要領の 3 歳児以上の内容を指している。

（4） 萬司　2020『子どもの音楽表現から考える幼小連携 ── 子ども向けミュージカルの実践から ──』拓殖大学論集人文・自然・人間科学研究 44 号

（5） 山田克巳　2020『リズミック王国 ～パークスの箱～（シナリオ・楽譜）』拓殖大学北海道短期大学

（6）「幼稚園教育要領に示される「幼稚園教育において育みたい資質・能力」は以下の通り。

1　幼稚園においては，生きる力の基礎を育むため，この章の第 1 に示す幼稚園教育の基本を踏まえ，次に掲げる資質・能力を一体的に育むよう努めるものとする。

1）　豊かな体験を通じて，感じたり，気付いたり，分かったり，できるようになったりする「知識及び技能の基礎」

2）　気付いたことや，できるようになったことなどを使い，考えたり，試したり，工夫したり，表現したりする「思考力，判断力，表現力等の基礎」

3）　心情，意欲，態度が育つ中で，よりよい生活を営もうとする「学びに向かう力，人間性等」

（7）「幼稚園教育要領に示される「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は以下の通り。各項目の説明文は省略。

3　次に示す「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は，第 2 章に示すねらい及び内容に基づく活動全体を通して資質・能力が育まれている幼児の幼稚園修了時の具体的な姿であり，教師が指導を行う際に考慮するものである。

1）　健康な心と体

2）　自立心

3）　協同性

4） 道徳性・規範意識の芽生え
5） 社会生活との関わり
6） 思考力の芽生え
7） 自然との関わり・生命尊重
8） 数量や図形，標識や文字などへの関心・感覚
9） 言葉による伝え合い
10） 豊かな感性と表現

（8） 領域「人間関係」に示される 13 項目は以下の通り。
1） 先生や友達と共に過ごすことの喜びを味わう。
2） 自分で考え，自分で行動する。
3） 自分でできることは自分でする。
4） いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。
5） 友達と積極的に関わりながら喜びや悲しみを共感し合う。
6） 自分の思ったことを相手に伝え，相手の思っていることに気付く。
7） 友達のよさに気付き，一緒に活動する楽しさを味わう。
8） 友達と楽しく活動する中で，共通の目的を見いだし，工夫したり，協力したりなどする。
9） よいことや悪いことがあることに気付き，考えながら行動する。
10） 友達との関わりを深め，思いやりをもつ。
11） 友達と楽しく生活する中できまりの大切さに気付き，守ろうとする。
12） 共同の遊具や用具を大切にし，皆で使う。
13） 高齢者をはじめ地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもつ。

（9） 領域「言葉」に示される 10 項目は以下の通り。
1） 先生や友達の言葉や話に興味や関心をもち，親しみをもって聞いたり，話したりする。
2） したり，見たり，聞いたり，感じたり，考えたりなどしたことを自分なりに言葉で表現する。
3） したいこと，してほしいことを言葉で表現したり，分からないことを尋ねたりする。
4） 人の話を注意して聞き，相手に分かるように話す。
5） 生活の中で必要な言葉が分かり，使う。
6） 親しみをもって日常の挨拶をする。
7） 生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付く。
8） いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする。
9） 絵本や物語などに親しみ，興味をもって聞き，想像をする楽しさを味わう。
10） 日常生活の中で，文字などで伝える楽しさを味わう。

(10) 本稿で「擬音語や擬声語等」と示す場合，金田一（1978）の整理「擬音語」「擬声語」「擬態語」「擬容語」「擬情語」を意図して示している。

(11) 領域「言葉」に示される 8 項目は以下の通り。
1） 生活の中で様々な音，形，色，手触り，動きなどに気付いたり，感じたりするなどして楽しむ。
2） 生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ，イメージを豊かにする。
3） 様々な出来事の中で，感動したことを伝え合う楽しさを味わう。
4） 感じたこと，考えたことなどを音や動きなどで表現したり，自由にかいたり，つくったりなどする。
5） いろいろな素材に親しみ，工夫して遊ぶ。

6） 音楽に親しみ，歌を歌ったり，簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう。
7） かいたり，つくったりすることを楽しみ，遊びに使ったり，飾ったりなどする。
8） 自分のイメージを動きや言葉などで表現したり，演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう。

(12) 唱歌は「しょうが」と発音し，「口唱歌（くちしょうが）」ともいう。日本語のもつ固有の音感によってリズムや旋律を表す。

(13) 領域「環境」 3 内容の取扱い　に次のように述べられている。
4） 文化や伝統に親しむ際には，正月や節句など我が国の伝統的な行事，国歌，唱歌，わらべうたや我が国の伝統的な遊びに親しんだり，異なる文化に触れる活動に親しんだりすることを通じて，社会とのつながりの意識や国際理解の意識の芽生えなどが養われるようにすること。

(14) 萬司　2021『幼稚園教育要領における「指導と評価の一体化」に関する考察』拓殖大学北海道短期大学研究紀要第 1 号

(15) 文部科学省　2017『小学校学習指導要領』同発行の　第 6 章 特別活動 第 2 各活動・学校行事の目標及び内容 〔学校行事〕2 (2) 文化的行事　の記述内容

(16) 工藤江里菜，ピアノシンガーソングライター・作編曲家（株式会社ハツミミ 代表取締役）

参考文献・引用文献

厚生労働省　2018『保育所保育指針解説』 同発行

厚生労働省　2017『保育所保育指針』 同発行

内閣府・文部科学省・厚生労働省　2018『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 同発行

内閣府・文部科学省・厚生労働省　2017『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 同発行

文部科学省　2018『幼稚園教育要領解説』 同発行

文部科学省　2017『幼稚園教育要領』 同発行

文部科学省国立教育政策研究所　2019『学習評価の在り方ハンドブック 小・中学校編』 同発行

文部科学省国立教育政策研究所　2020『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校国語』 同発行

文部科学省国立教育政策研究所　2020『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校音楽』 同発行

紙屋信義　2003『保育者養成における子どもミュージカル発表の実際』千葉大学教育学部研究紀要 51

衣川久美子・山崎和子・坂井康子　2013『保育士，幼稚園，小学校教諭養成校で用いられている子どもの歌』甲南女子大学研究紀要第 49 号人間科学編

金田一春彦著・浅野 鶴子　1978『擬音語・擬態語辞典　角川小辞典〈12〉』角川書店

坂井莉野・萬司　2018『幼稚園教育要領改訂後の教員養成の在り方：三つの幼児教育施設の関係性と小学校との接続から』拓殖大学北海道短期大学研究紀要創立 50 周年記念号

坂井康子・五味克久　2001『子どもの歌唱におけるフレーズの長さと息継ぎについて』神戸大学発達科学部研究紀要 9

萬司　2020『子どもの音楽表現から考える幼小連携 ── 子ども向けミュージカルの実践から ──』拓殖大学論集人文・自然・人間科学研究 44 号

萬司　2021『幼稚園教育要領における「指導と評価の一体化」に関する考察』拓殖大学北海道短期大学研究紀要第 1 号

（原稿受付　2021 年 10 月 25 日）